



Handwritten Japanese characters in black ink, possibly a title or author's name, written vertically on a piece of aged paper pasted onto the cover.

1429
^ 5

20
礼正



利 1429
門 孫 卷



墨海飛
北溟

序



この述懐は、その一、その二、の如く、
序、その三、その四、の如く、
明、その五、その六、の如く、
西、その七、その八、の如く、
羽、その九、その十、の如く、
も、その十一、その十二、の如く、

はつと御恩の深きと云ふも...
あふとあふとあふとあふと...
あふとあふとあふとあふと...
あふとあふとあふとあふと...
あふとあふとあふとあふと...

安永八年三月

五月十日



書齋の印

日時観

送喜亭

書齋の印

任飽と云ふは...
あふとあふとあふとあふと...
あふとあふとあふとあふと...
あふとあふとあふとあふと...
あふとあふとあふとあふと...

三十三

三十三

さうぞうとてとまわれぬおつら

荻野

純子 湖市の純子とて

と純

さうぞうとてとまわれぬおつら

吟

何とぞとてとまわれぬおつら

子知

むしとてとまわれぬおつら

五月

せととてとまわれぬおつら

月夜

さうぞうとてとまわれぬおつら

ふ石

さうぞうとてとまわれぬおつら

吟



何とぞとてとまわれぬおつら

如苑

今とてとまわれぬおつら

文之

有とてとまわれぬおつら

七周

丁とてとまわれぬおつら

素流

高とてとまわれぬおつら

翠二

定とてとまわれぬおつら

遊二

いさとてとまわれぬおつら

見亦

眠くとてとまわれぬおつら

素流

かゝるものゝ水は清く

茶をうけぬ日々に

伊はしむのまは日あり

ふかふかするは月流

うあゝのまはまはま

まはまのまはまはま

まはまのまはまはま

まはまのまはまはま

尾筋あるもの指されて指の先

丹々のと田をくわく

まはまのまはまはま

まはまのまはまはま

人々のまはまはま

房のまはまはま

まはまのまはまはま

かゝるものゝ水は清く

長生公をたふれし清くし

あつとくまるとまねねとて

おしとねかしくとくま

月と新波のきふれふれ

はるまふまふとてふれ

ねとねのきふとてふれ

あつとくまるとまねねとて

のねとあふく

あつとくまるとまねねとて

あつとくまるとまねねとて

あつとくまるとまねねとて

あつとくまるとまねねとて

あつとくまるとまねねとて

あつとくまるとまねねとて

し

〜〜〜〜〜の〜〜〜

〜〜〜〜〜の〜〜

〜〜〜〜〜の〜

〜〜〜〜〜の〜

〜〜〜〜〜の〜

〜〜〜〜〜の〜

〜〜〜〜〜の〜

雑記

〜〜〜法師の〜

〜〜〜の〜

〜〜〜の〜

〜〜〜

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 雲南

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

あまのついでに 塔のまへに くらまのまへに 志山

空を飛ぶ鳥の如く

夢見し

雲を渡る月の如く

示細極の定達

可上

水に流るる舟の如く

示極

空を渡る鳥の如く

示極の定達

雅六

空を渡る鳥の如く

蒼生

空を渡る鳥の如く

長谷川

梅香

空を渡る鳥の如く

青泉

空を渡る鳥の如く

茶室

空を渡る鳥の如く

雨保

空を渡る鳥の如く

沙明

空を渡る鳥の如く

十阿

空を渡る鳥の如く

志仙

空を渡る鳥の如く

宜孝

空を渡る鳥の如く

分齋

空を渡る鳥の如く

昌文

空を渡る鳥の如く

孝升

作く日中もいふゆゑと標 呉秀

白雲くぬく年の正月 たふね田 扇浦

うらむいふいとふさしぬぬ ふゆん 如桂

そのちかぬも向中塚 わか柳 可輝

いづれの月しき まな松 文圃

昔のいふ 里石

さ 雨束

い と波

い と波

あ 茶ふ

あ 里脛

九 燈乙

も 如赤

そ 兎因

あ 枕心

い 和先

身と心して程に成るる塚橋 ハナノ 志保

山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保

山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保

山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保

山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保

山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保

山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保

山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保

抑除きの塚のあつちの塚橋 ハナノ 志保
 左の山の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保
 山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保
 代く山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保
 山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保
 梅の山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保
 招く山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保
 山崎の山崎の山崎の山崎 ハナノ 志保

若のよちやせんくー一 塚の寝 たる寝
そのたれまつむさよふ 女 夢
寝るよちやせんくー一 塚の寝 ひと
夢よちやせんくー一 塚の寝 巴文
ゆー 夢よちやせんくー一 塚の寝 夢
ゆー 夢よちやせんくー一 塚の寝 夢
ゆー 夢よちやせんくー一 塚の寝 夢
ゆー 夢よちやせんくー一 塚の寝 夢

焼まのねくー一 塚の寝 眠
若い夢もたれくー一 塚の寝 夢
たる寝やせんくー一 塚の寝 夢
かられてくー一 塚の寝 夢
夢よちやせんくー一 塚の寝 夢
夢よちやせんくー一 塚の寝 夢
夢よちやせんくー一 塚の寝 夢
夢よちやせんくー一 塚の寝 夢
夢よちやせんくー一 塚の寝 夢
夢よちやせんくー一 塚の寝 夢

の文

修尾

梅二

文川

一阜

字梅

と南

と梅

と梅

と梅



と梅

道人

と梅

と梅

と梅

相文

と梅

と梅

と梅

と梅

昔のしんぼろのうらなひのうらなひのうらなひ
 今もかきかきかきかきかきかきかきかき
 昔もかきかきかきかきかきかきかきかき
 今もかきかきかきかきかきかきかきかき
 昔もかきかきかきかきかきかきかきかき
 今もかきかきかきかきかきかきかきかき
 昔もかきかきかきかきかきかきかきかき
 今もかきかきかきかきかきかきかきかき

いさばく存るるるるるるるるるるるる
 あはれいさばくけりかきかきかきかき
 世にけりかきかきかきかきかきかきかき
 梅雨のうらなひのうらなひのうらなひ
 梅雨のうらなひのうらなひのうらなひ
 かきかきかきかきかきかきかきかき
 梅雨のうらなひのうらなひのうらなひ
 そのうらなひのうらなひのうらなひ

法會 餘奥

おき略

乙周

藤のちや月ぶくせうのぼり

茶室のほのむく根先 文水

あゆまのたゆまをよせて 文暁

六百部下巻

